

等差中項と等比中項【並べ替えて等差数列，等比数列になる3数】

3つの異なる実数 a, b, c がこの順序で等差数列をなし， b, c, a の順序で等比数列をなすとする。ただし，公差は0でなく，公比は1でないとする。

- (1) $a+b+c=15$ であるとき， a, b, c を求めよ。
 (2) $abc=64$ であるとき， a, b, c を求めよ。

< '06 愛知大 >

【戦略】

一般に3数 a, b, c がこの順に等差数列であるとき

$$2b = a + c \left(b = \frac{a+c}{2} \right)$$

という関係が成り立ちます。(b を a, c の等差中項と言います。)

また，3数 a, b, c がこの順に等比数列であるとき

$$b^2 = ac$$

という関係が成り立ちます。(b を a, c の等比中項と言います。)

本問においては， $\begin{cases} 2b = a + c \\ c^2 = ab \end{cases}$ という2式が成り立ちます。

これに(1)，(2)の条件が加わるため，結局は連立方程式の問題になります。

「条件1つで1文字消去」という原則に従い，上記2式から2文字消しておくとお手際が良いでしょう。

【解答】

a, b, c がこの順序で等差数列となるので， $2b = a + c \dots \textcircled{1}$

b, c, a がこの順序で等比数列となるので， $c^2 = ab \dots \textcircled{2}$

$\textcircled{1}$ より， $c = 2b - a \dots \textcircled{1}'$

$\textcircled{2}$ に代入すると， $(2b - a)^2 = ab$

これを整理すると， $a^2 - 5ab + 4b^2 = 0$

すなわち $(a - 4b)(a - b) = 0$

a, b, c は相異なるという条件から， $a \neq b$ であり， $a = 4b$

このとき $\textcircled{1}'$ より， $c = -2b$

ゆえに， $(a, b, c) = (4b, b, -2b)$

(1) 条件 $a + b + c = 15$ であるため， $4b + b - 2b = 15$ ，すなわち

$$b = 5$$

ゆえに， $(a, b, c) = (20, 5, -10) \dots \textcircled{\square}$

(2) 条件 $abc = 64$ であるため， $4b \cdot b \cdot (-2b) = 64$

$$b^3 = -8$$

$b^3 + 8 = 0$ ，すなわち $(b + 2)(b^2 - 2b + 4) = 0$

条件より b は実数であるため， $b = -2$

ゆえに， $(a, b, c) = (-8, -2, 4) \dots \textcircled{\square}$

【戦略2】

b, c, a という等比数列の並びに対し， $c = br, a = br^2$ と表してもよいでしょう。

【解2】

b, c, a という等比数列の並びに対し，公比を $r (r \neq 1)$ として

$$c = br, a = br^2$$

と表せる。

このとき， $a (= br^2), b, c (= br)$ がこの順で等差数列であるため

$$2b = br^2 + br$$

$b = 0$ とすると， $a = c = 0$ となってしまう， a, b, c が相異なるという条件に反するため， $b \neq 0$ であり

$$2 = r^2 + r$$

これより， $r^2 + r - 2 = 0$ で， $(r + 2)(r - 1) = 0$

$r \neq 1$ より， $r = -2$ を得て， $(a, b, c) = (4b, b, -2b)$ を得る。

(以下【解1】に準ずる)

【戦略3】

(1) では和に注目し, (2) では積に注目して文字消去するのもよいでしょう。

【解3】

a, b, c がこの順序で等差数列となるので, $2b = a + c \dots ①$

b, c, a がこの順序で等比数列となるので, $c^2 = ab \dots ②$

(1) $a + b + c = 15$ より, $a + c = 15 - b$ であり, ① より

$2b = 15 - b$ で, $b = 5$ を得る。

このとき ①, ② より $\begin{cases} a + c = 10 \\ 5a = c^2 \end{cases}$

$c = 10 - a$ であるため, $5a = (10 - a)^2$

これを整理すると $a^2 - 25a + 100 = 0$

$(a - 20)(a - 5) = 0$ で, $a = 5$ とすると, $a = b$ になってしまう。

よって, $a = 20$ を得て, このとき, $c = -10$

ゆえに, $(a, b, c) = (20, 5, -10) \dots \text{㊦}$

(2) $abc = 64$ より, ② から, $c^2 \cdot c = 64$, すなわち $c^3 - 64 = 0$

$(c - 4)(c^2 + 4c + 16) = 0$ で, c は実数であるため $c = 4$

このとき, ①, ② より $\begin{cases} 2b = a + 4 \\ ab = 16 \end{cases}$

$a = 2(b - 2)$ であるため, $b(b - 2) = 8$

これを整理すると, $b^2 - 2b - 8 = 0$

$(b - 4)(b + 2) = 0$ で, $b = 4$ とすると, $b = c$ になってしまう。

よって, $b = -2$ を得て, このとき $a = -8$

ゆえに, $(a, b, c) = (-8, -2, 4) \dots \text{㊦}$

【総括】

a, b, c がこの順に等差数列であることの翻訳は

$$① : (a, b, c) = (a, a + d, a + 2d) \text{ (公差 } d \text{ と設定)}$$

$$② : (a, b, c) = (b - d, b, b + d)$$

$$③ : 2b = a + c$$

とするのが代表的ですが, ① や ② から ③ が示されます。

同様に a, b, c がこの順に等比数列であることの翻訳は

$$① : (a, b, c) = (a, ar, ar^2) \text{ (公比 } r \text{ と設定)}$$

$$② : (a, b, c) = \left(\frac{b}{r}, b, br \right)$$

$$③ : b^2 = ac$$

とするのが代表的で, 同じく ① や ② から ③ が示されます。

なので【戦略2】は【解1】の方針とほぼ同じことです。